

食を通して子どもたちに明るい未来を

食に学ぶ 暮らしの基礎

先のない不安。自分の居場所のない環境。きちんと叱つてくれる大人がいないから、正しいことが分からない。

児童自立支援施設である横浜家庭学園は、家庭や学校、児童養護施設など、地域社会で暮らすことが難しい18歳までの女子児童を受け入れ、社会に適應できるように支援する施設です。

同学園では、寝食や勉強もすべて園内で行い、規則正しい生活をし、人間としての基礎を学んでいます。食に対して好き嫌いが激しかったり、朝昼晩の三度の食習慣を経験していない子どもも多く、栄養管理による十分な栄養摂取はもちろん、食体験や食への興味・関心も重要と考え、「ごはんの時間は楽しい」と体の中に記憶させたいと心掛けています。

食事中は、箸や食器の持ち方・正しい姿勢など家庭で教わる一般的なことを身に付けながら、苦手な食べ物も、多少の失敗作の料理

であっても、感謝の心を持ち、愛情ある職員の支援により毎食残さず食べています。

また、料理研究家の先生を招いた調理教室「写真」を毎週開催し、さまざまな食材に触れ、子どもたちには基礎から本格的な料理を学んでいます。



①～③この日のテーマは西洋料理。皮むきも細かな千切りも、さすがの包丁さばきです
④「油を使うときは新聞紙を」「並行してつけを」教わるのは調理ではありません

ひとり職場の分かち合い

県社協の児童福祉施設協議会「栄養士会」では、食を通じたさまざまな実践を持ち寄り、情報交換を行っています。この会は「栄養士が一人しかない施設が多く、相談相手がない、勉強する機会が少ない」という現場の悩みから、



調理関係者研修の様子

- ◆(福) 幼年保護会 横浜家庭学園
横浜市保土ヶ谷区釜台町18-1
☎045-331-5884 FAX045-331-5013
- ◆児童福祉施設協議会「栄養士会」
本会社会福祉施設・団体担当
☎045-311-1424 FAX045-313-0737

同協議会委員の長井晶子さん（久良岐乳児院施設長）の呼び掛けにより、平成8年に設置されました。

定例の集まりのほか、調理実習を行ったり、「衛生管理」「思春期の食事と心のケア」「食と自立」「食育」「食物アレルギー」などをテーマに取り上げた研修会や、施設視察などを開催しています。本年度の日本栄養改善学会では、児童福祉施設における和食の提供について発表し、今後は「防災」をテーマに、施設間の情報共有ができるように準備を進めています。

児童福祉施設での暮らしの質や、退所後の食の自立を見据えながら、子どもたちの明るい未来につながるような食の提供を目指して、今後も活動していく予定です。

(横浜家庭学園)

医療・福祉界の健全発展に資することが私たちの使命です。

医療・福祉業界の皆様が抱える様々な問題の解決に向けて、経営コンサルティング・税務会計・会計監査などの専門サービスを総合的に提供できる体制を整備しております。

- ◆ 福祉経営・医療経営コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関への人事コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関に特化した税務会計・代行
- ◆ 福祉施設の第三者評価事業 など

福祉施設の皆様が地域のニーズに応え、時代や政策に適切に対応できるようご支援します。お気軽にご相談下さい。



川原経営グループ

(株)川原経営総合センター／税理士法人川原経営



東京都中央区銀座8-11-11TK銀座8丁目ビル
TEL (03) 3572-3051 E-mail : info@kawahara-group.co.jp
URL : http://www.kawahara-group.co.jp/



「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています

【発行日】2015(平成27)年2月15日(毎月1回15日発行)

【編集発行人】鈴木和夫

ご意見・ご感想をお待ちしています!

【発行所】社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

【印刷所】株式会社神奈川機関紙印刷所

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4番地の2 ☎045-311-1423 FAX045-312-6302 E-mail kikaku@knsy.jp